

第4章 資料編

事業評価アンケート
研修日程

事業評価アンケート

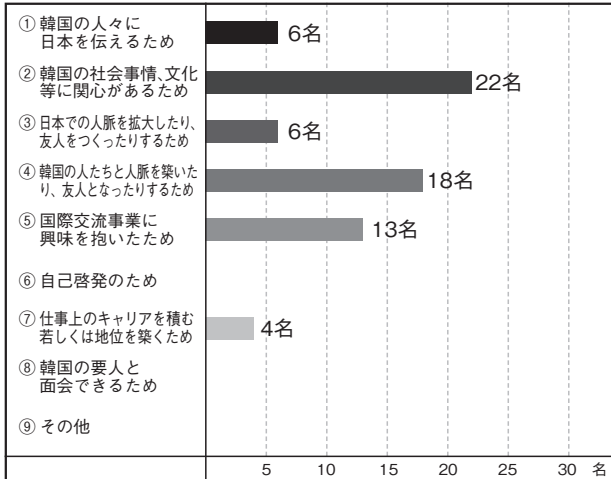
平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業(日本青年韓国派遣)

アンケート対象者：団長、副団長、渉外を除く参加青年25名

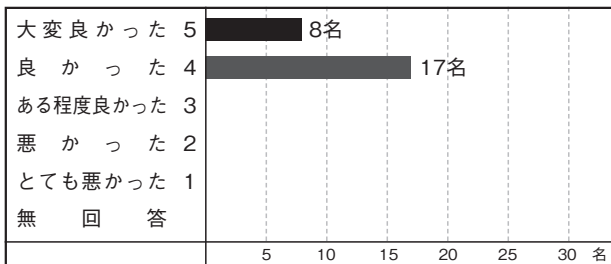
1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)

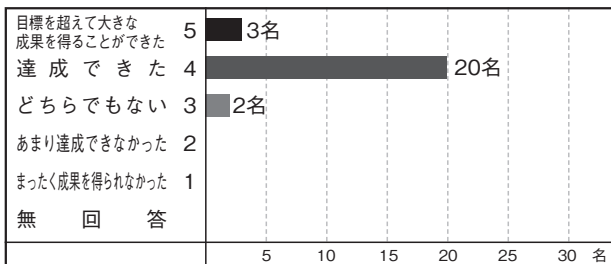


(2) 事業全体をどのように総合評価しますか。



- ・事業に参加したからこそ経験することの出来たプログラムから沢山の学びを得た。また、様々な分野から韓国をみる事が出来て良かった。
- ・自分が今まで知り得なかったこと、出会ったことのない人に出会い、幅を広げることができた。
- ・韓国青年との交流が楽しく、感謝の気持ちが忘れられない。

(3) この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



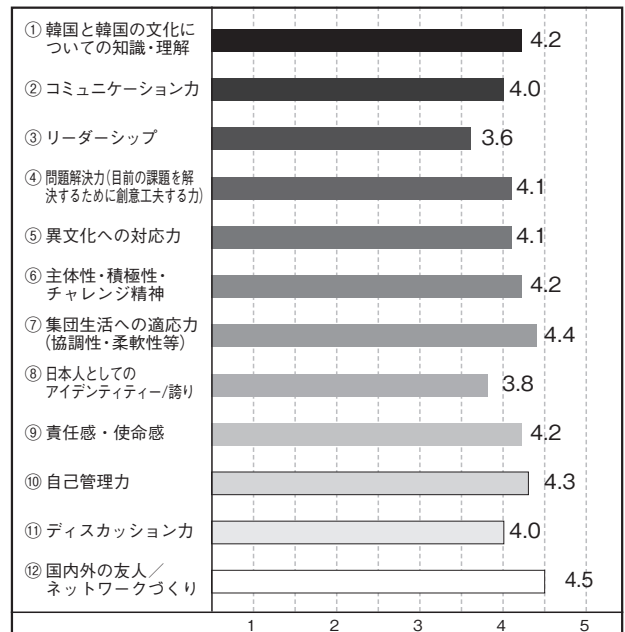
- ・韓国青年と虚心坦懐に話し合うこと。
- ・韓国について学び日韓の架け橋として自分が出来るこ

とをみつける。

- ・韓国を知ることで、より日本を知る。
- ・韓国にいだく偏見や固定概念ではなく直接この目で確かめる。

(4) 以下の①～⑫までに掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の5～1のうち、該当すると思われる数字を○で囲んでください。

- (5段階評価) 5：大きな効果があった
4：効果があった
3：どちらでもない
2：あまり効果がなかった
1：効果がなかった

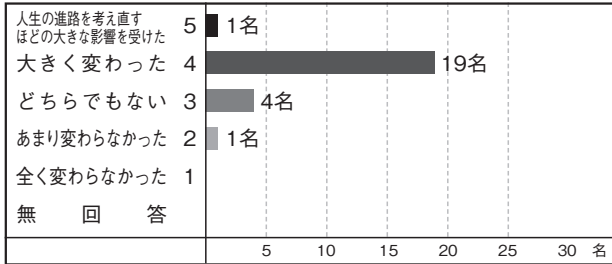


※数値は参加青年25名の平均

(5) 上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

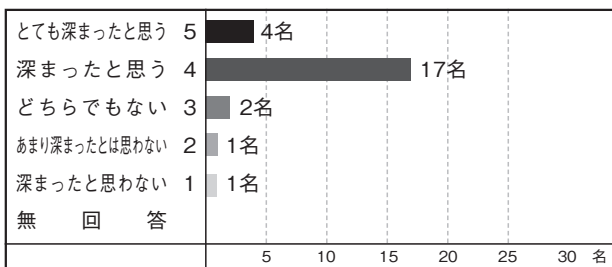
- ・自分が大学で学んでいる学問へのより深い関心。
- ・自分の価値観を押し付けず、でも自分の意見を主張する能力。
- ・韓国の人に対して、主張が強く、日本人をそこまで好きではないイメージだったが関わった人達の中では、そういった人は一人もいなかったの、偏見の怖さを感じた。直接体験したのは大きな経験であるし、伝える必要があると感じた。
- ・自分の目標発見。

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



- ・ いろいろなバックグラウンドを持つ人達が団員に多くいたので、いろいろな生き方があることを知った。
- ・ 何ごとにもまず挑戦してみることの大切さを学び、これから生きていく中でも常に向上心を持って生きていこうと思うようになった。
- ・ 私は今まで自分の中の固定概念にとらわれていたけれど、この事業で講義を聞き、韓国青年とコミュニケーションをとり、団員達の意見を聞いて、自分自身のものごとに対する考え方の幅が大きく広がった。
- ・ 事業だけでなく、今後のIYEOの活動を通して、自分の目標を達成すると共に社会貢献したいと思った。
- ・ 今まで割と良い面しか見えていなかったように思った。今回の派遣中に中高年の方はやはりまだ日本についての印象は悪いということをもっと体験した。ただし、青年は絶対に日本の文化などが好きで日本に興味をもって来ており、それは私たちも同様であり、ここから私たちの世代で関係をよりよいものにする必要があると思った。

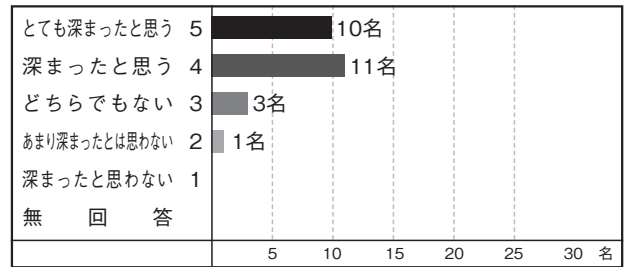
(7) この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



- ・ これまでは楽しい話(例k-pop)中心の会話をしていたが、今回の派遣では宗教、歴史について話すことができた。
- ・ 文化理解の促進は実現したが、根底にある社会問題への理解は私自身がもう少し努力する必要があると感じた。
- ・ 韓国人に対して多少偏見があったが、交流することでその偏見がなくなり、より韓国人のことを理解しようと思うようになった。
- ・ 交流の時間が短く、年齢の差が大きく、思うように交流できなかったところはあるが、連絡を取り合う友人が

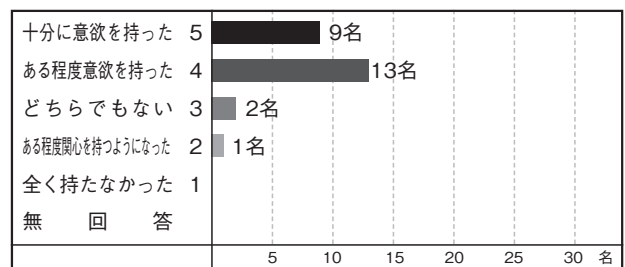
できたことは大きいと思う。

(8) この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか。



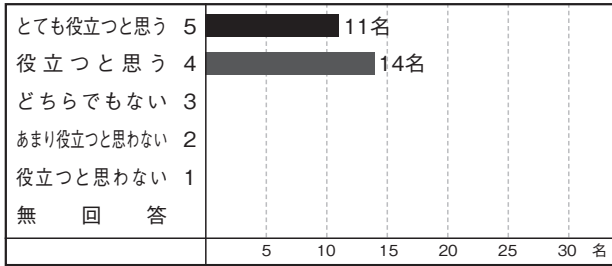
- ・ 短い期間に多くの人と出会ったことで、自分の中に抱いていた韓国のステレオタイプが少しずつ消え、個々の友人(韓国青年)と繋がることのできた。
- ・ 言葉は通じなくても、相手が自分を大切に思ってくれている気持ちが強く伝わってきたため。
- ・ たくさんの友人ができ、より韓国について勉強しようと思ったし、もっと日本のことを知ってもらいたいと思うようになった。
- ・ 青年に限って言えば友好は深まったと言えるが、世代が上がるとそれは厳しいものがあると感じる。

(9) 事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。



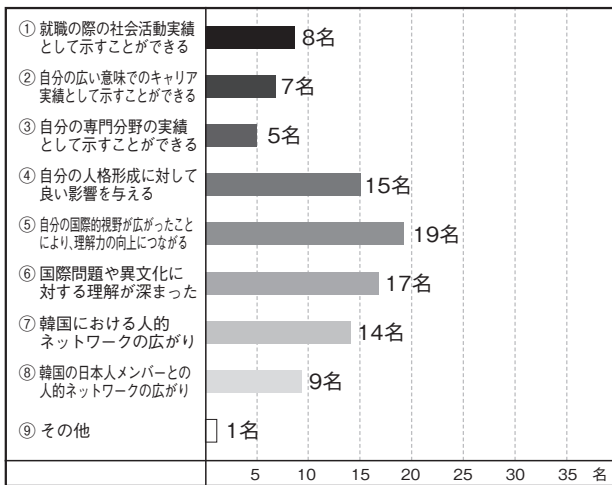
- ・ 社会貢献活動は自分とは程遠く難しいものだと思っていたが、今回の派遣の参加で地域のボランティアなども探してみようと思った。
- ・ 移住背景青少年支援財団や江陵市健康家庭多文化家族支援センターを訪問して、日本でもこのような施設があるのか気になったし、そこで手伝えることがあれば参加したいと感じた。
- ・ 社会貢献はとても難しいことなのではないか、という自分の考えがまだあるが、事業を通して自分が日本と韓国の社会で影響を与えることの出来る人になりたいという気持ちになった。
- ・ 事業に参加することができたのは、沢山の方々が目に見えない所で頑張ってくれたおかげであるから、その方々への恩返しの意味も込めて社会に貢献したいと思った。

(10)－1 この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



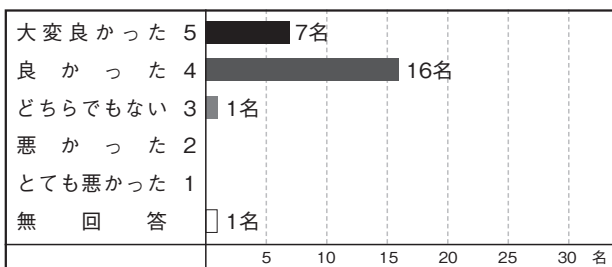
- ・何ごとにもまずは挑戦してみることの大切さと、それにより得られる達成感を知ることができたため。
- ・集団内での生活や、係の仕事を全うする能力は将来に役立つと思う。
- ・この事業に参加して、韓国の文化にしか興味の無かった自分の視野が広がった。事業で学んだことは今後必ず役立つと思う。
- ・様々な価値観を持った人々(国内外を問わず)と意見を出しあうことで、色々な見識が広がった。

(10)－2 (10)－1において、5～4を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。(複数回答可)



2. 訪問国活動について

(1) 訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。



- ・訪問先も多岐に渡る場所だったのと、そこで色々な考え方もつ人たちに出会えたことが良かった。
- ・「多文化共生」というテーマに沿ったプログラムがと

てもおもしろかった。

- ・地方都市にも足を運ぶことができ、多くの経験が得られた。
- ・表敬訪問と講義、観光がバランス良く組まれていたが、専門家や学者の話を聞く機会がもう少し欲しかった。
- ・自分が専攻している分野とは異なっていたが、興味深いテーマで学びがいがあった。

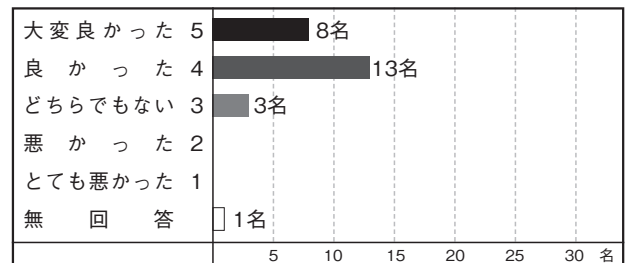
(2) 訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

- ・自分の思っていた韓国像と異なる点を見つけた時、自分は知識が足りなかったなと感じたこと。
- ・大切なものは表面に見えるものだけではないこと。
- ・相手の生きていた背景を理解しようとすることの重要性。
- ・日韓が直面している課題は非常に似ているということ。
- ・南北関係について、ニュースで得られない部分を自分の目で見ることができた。

(3) 訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

- ・文化紹介の時間の両国青年の笑顔。
- ・韓国の高校生や大学生、韓国にいる外国人の青少年の方々は多文化共生について考えていたり知識を持っている一方で、自分は今まで国際的に視野を広げて考えておらず、知識不足であったことに気づかされたこと。
- ・日本の代表として参加したけれど、外交問題に関係なく日本人として歓迎してもらえたこと。
- ・言語が通じなくてもお互いに相手を理解しようとすれば雰囲気は良くなること。
- ・韓半島統一未来センターで、初めて韓国・韓国人の統一に対するポジティブな意見を直接見聞きしたこと。

(4) 地元青年との交流をどのように評価しますか。

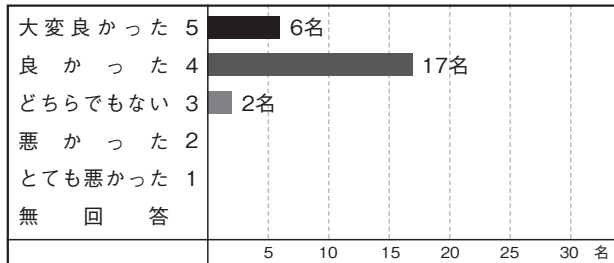


- ・やはり日韓は人対人があってこそ友好関係を築けるのだと思う。
- ・寝食を共にしたことで、繋がりの深い友人ができた。
- ・新しい友人が出来たことが嬉しかった。そして、個人

の旅行ではできないディスカッションや交流会をすることで、実際に韓国で生活する人の考え方に触れられたのが良かった。

- ・それぞれの交流時間が短い分、なかなか本質の部分や本題、大義が見出しにくかった。

(5) -1 施設訪問をどのように評価しますか。



(5) -2 特に印象に残った訪問先を、印象が強い順に3つ挙げ、理由をお答えください。

朝鮮半島統一関連施設：韓半島統一未来センター、烏頭山統一展望台、漣川

- ・自分の目で北朝鮮を見たのが印象深い。
- ・統一に向かっている社会の変化とあいまって「歴史が動く」感覚がした。
- ・北朝鮮を始めて肉眼で見て、自分の固定観念や考え方がひっくり返され、自分が今まで無知すぎたことを思い知らされた。
- ・統一した後の朝鮮半島を想像したこともなく、韓国も統一反対だと思っていて、統一を望むこのような施設があることを知って、新しい世界を見た気がした。

原州市障害者総合福祉機関

- ・国や言語を越えて、文化発表のパフォーマンスを心の底から楽しんでくれた。
- ・言葉も通じないけれど、それでも一緒に何かをすることができるのだと実感した。
- ・言葉の壁はあまり関係ないんだと思われた。障害者の方々から手をつないでもらって一緒におりがみしてくれたり笑顔でいてくれて、自分の必要性についても感じる事ができた。

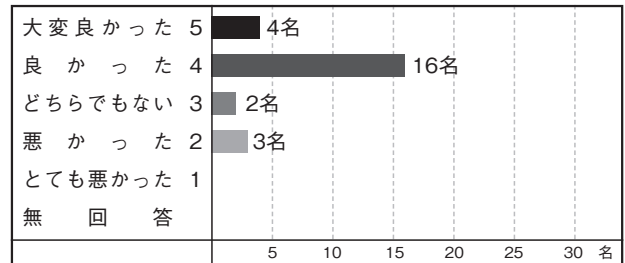
移住背景青少年支援財団

- ・グローバル化が進み国際結婚や転勤等の様々な背景を持った子供たちがいることを始めて実感することができた。今後このような子どもたちは増えていくため、韓国も日本もどう対応していくのか気になる。
- ・様々な事情をもって暮らす多くの青少年と一緒にいる時間を持てたことが、経験としてなかったため知ることが出来た。笑顔で一緒に過ごせて良かった。
- ・どうしても移住した家族へのサポートが狭い日本と比

べてしまった。

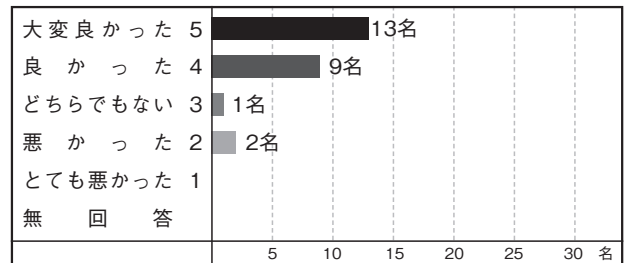
- ・韓国での多文化共生について具体的に知ることができた。

(6) 合宿型ディスカッションプログラムをどのように評価しますか。



- ・共に生活することで会話の機会もとても多かったし、ディスカッション自体も互いの国の現状を知れたり、気になっていた質問もできた。
- ・あれほど時間をかけてディスカッションの準備をしたことがなかったのもとてもいい経験になった。ただ、1泊2日で短かったのが残念だった。
- ・テーマについて事前に沢山調べることも出来、両国について互いに学び合えた。意見交換をして相互理解が出来た。
- ・韓国人・日本人と一緒に泊まることで人間性や思いやりが見えて良かったと思う。

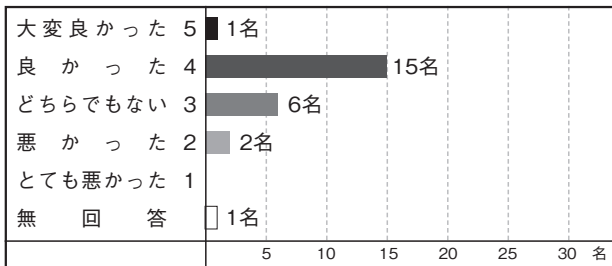
(7) ホームステイをどのように評価しますか。



- ・実際に韓国の家庭の中で生活してみて、韓国人の優しさに沢山触れることが出来た。とても楽しかった。
- ・韓国の一般的な家庭を肌で体験することができ、韓国の文化や日本との相違点を学ぶことができた。
- ・良いホームステイ先だったと思う。日本文化に興味があり、韓国文化を伝えたい気持ちを表現してくれていた。
- ・韓国家庭の休日をそのまま見せていただいて、たくさん貴重な体験ができた。
- ・いつも一緒に行動し、気を遣ってくれる優しい家族だった。自分も将来日本在住の留学生への母親運動等に携わりたと思った。

3. 事前・出発前・帰国後研修について

(1) 研修内容をどのように評価しますか。



(2) 研修の良かったところ、改善すべきところをそれぞれお答えください。

〈良かったところ〉

- ・出発前研修があったことで、韓国に行く前からモチベーションを高く持てた。文化発表の練習もできた。
- ・プログラム開始前に研修があるのは、団結力が生まれやすくて良いと思う。
- ・帰国後研修では成果発表の準備をすることで、より派遣での自分の感想や思ったことが再確認できた。

〈改善すべきところ〉

- ・事前研修はもう少しアイスブレイキングや団員で仲良くなれるプログラムがあったら良かった。
- ・スケジュールを臨機応変に変更できる柔軟さがほしい。
- ・もう少し、事業のふり返りの時間があれば、ありがたかった。

4. 事業を終了して

(1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

- ・まずは事後活動として大学やゼミでこんなにいい事業があるということをより多くの人に知ってもらおうことが自分の役目だと思う。また、この事業を通して感じたことや思ったことは、韓国人の今回出会った友人と話をしたい。そして、国の事業として参加した責任感や協調性をみにつけたため、それをまずは身近な大学から発揮していきたい。
- ・私は今まで日韓交流をした経験はあったが、「継続」ということを気にしていなかった。日韓の架け橋となる為には、継続していくことが大切であると感じたので、今後活かしていきたい。また、文化面でしか知らなかった韓国を、教育、両性平等問題、南北問題など、事業をきっかけに興味を持てたことをより学びの深いものにしていきたい。今回学んだこと、関わることの出来た沢山の方々を忘れずに、自分の今後に繋げていきたい。

- ・日本と韓国の青年が垣根を超えて話し合った経験を、所属大学での異文化交流センターで活かして、国際交流を広げたい。
- ・今まで知らなかった韓国の一面に対する理解を多くの人に発信できるよう努めたい。また、IYEOの活動にも継続的に参加したい。

(2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

- ・たくさんの経験をする中で、自分の考え方や物事の見方、とらえ方が変化するのを感じた。また、たくさんの人の協力でこのプログラムが成り立っていることも肌で感じたいのでその人たちに感謝の気持ちをもって、それを忘れずにいきたいと考えている。
- ・実際の派遣を終えて、この事業の既参加者としてこれからどうするかが重要になってくる事業なのだなと実感した。来年もその先もずっと事業が続いていけば良いと思う。
- ・各施設に滞在する時間が短く、表面的な部分しか知ることが出来なかったことが残念である。歴史的な建築物などを巡る時間があっても良いと思うし、韓国の文化についての講義も、もっと受けたかったと思う。

事業評価アンケート

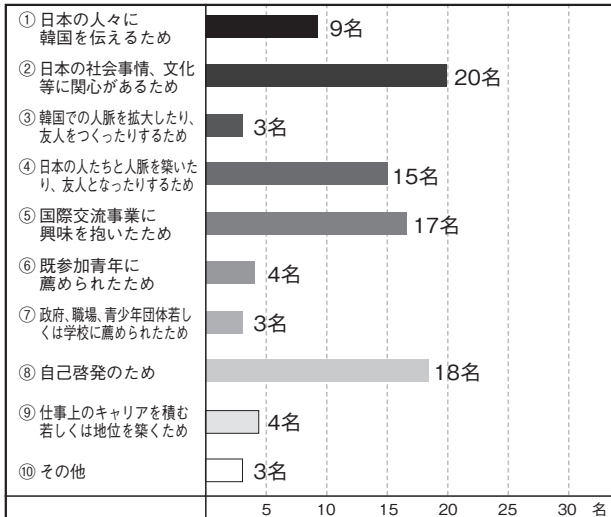
平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業(韓国青年招へい)

アンケート対象者：団長、副団長を除く参加青年27名

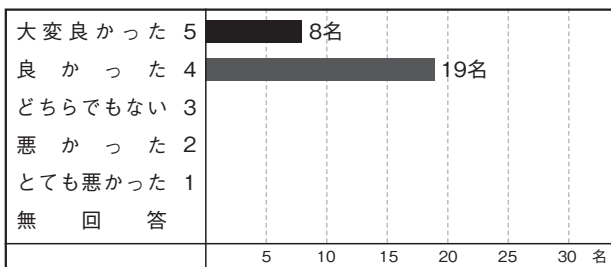
1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)



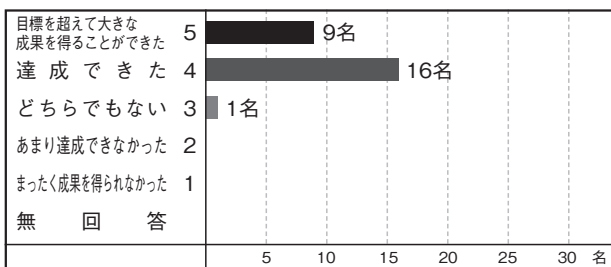
(2) この事業を、どのように総合評価しますか。



- ・日本のもっと色々な部分について学ぶことができて良かった。
- ・プログラム一つ一つに全部意味が込められていて、丁寧に企画してくださったという印象を受けた。
- ・各プログラムごとに学べるものがあった。

(3) あなたが考えた派遣中の具体的な目標は何でしたか。

また、それは達成できましたか。

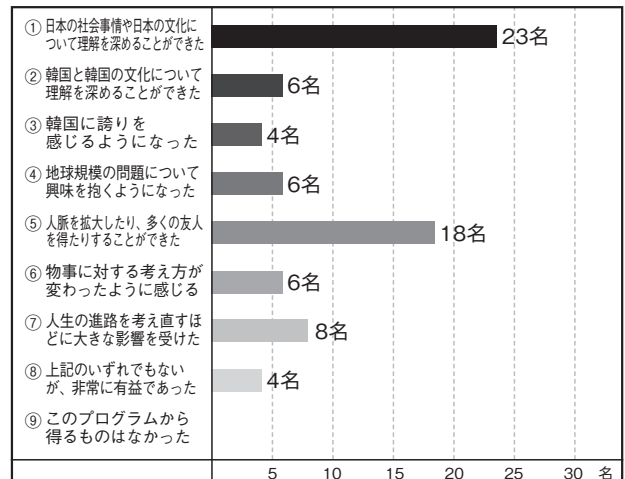


- ・日韓交流に役に立つ人になること。
- ・日本をもっと深く理解し、韓国の文化・伝統を発信すること。

- ・外交官・国際交流関係の進路が本当に自分が望むものなのか確かめること。
- ・国家の品格を落とすことなく、両国の文化を円滑に交わすこと。
- ・日本人々と友好関係を築き、絆をつくること。

(4) あなたは、この事業からどのような成果を得ましたか。

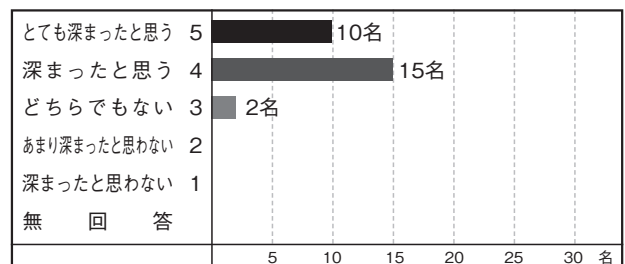
(複数回答可)



(5) この事業から、(4)で示したものの他に、具体的に得られたことがあれば記述してください。

- ・友達をつくるだけでなく、お互いの文化についてどう思っているか、差を縮めるためにはどうすればいいかがわかった。
- ・日本の市民意識、国際交流の重要性など。
- ・リーダーシップを発揮する方法。また自分が精神的に疲れた時でも他人に気遣い、共にする方法。
- ・ディスカッションなどを通じて、相手を説得する方法には何があるのかを考えるようになった。
- ・日本語の能力の向上。

(6) この事業を通じて、あなたと日本人々との相互理解が深まったと思いますか。

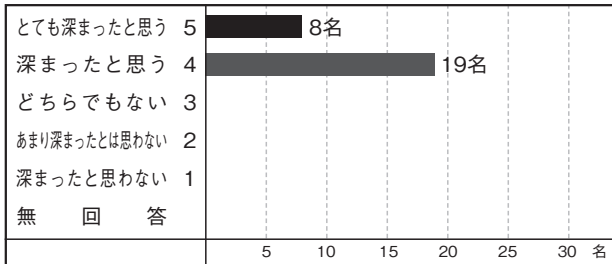


- ・食文化など、表面的なものだけでなく、両国が抱えている同じ問題について一緒に悩み、差異・共通点を共

有することができた。

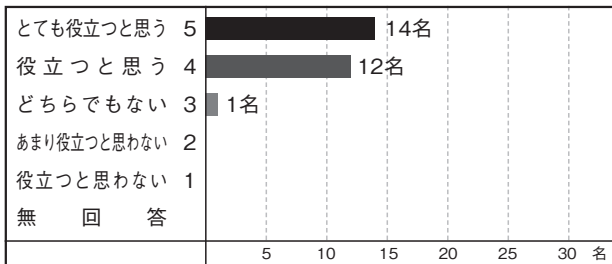
- ・日韓関係、両国の政治・社会問題などについて自由かつ真面目に話すことで、相互理解を深めることができた。ただ、あまり時間に余裕がなかったのが残念だった。
- ・見えない壁のようなものがあったけど、(それを乗り越えられるほどの)相互理解が深まる前に事業が終わってしまい、そこは非常に残念だと思う。

(7) この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか。



- ・交流活動が終わった後も、SNSやメッセージで連絡を取っているので、友好は深まったと思う。
- ・別れる度に涙を流す日本の方を見て、いい関係を築けたと思えて良かった。
- ・色々な人に出会えるのはいいと思うが、ある特定の友達と長く、深く交流する時間はあまりなかったので、いつも新しく関係を築かなければならないのが少々つかった。

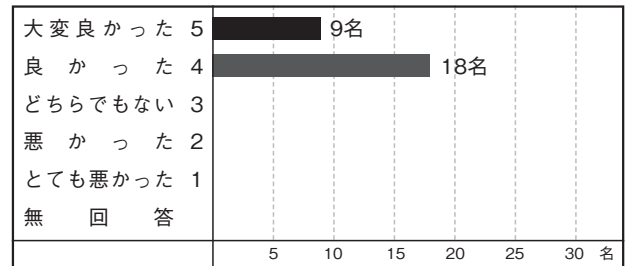
(8) この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



- ・自分の将来についてももう一度悩み、具体化させる時間となった。
- ・将来、日韓の間に立ち、交流がうまくできるようにする、専門の研究者になることにした。
- ・チーム別の活動を通じて、チームワークを学ぶことができた
- ・まだ進路を決めてなかったが、国際交流事業関連のお仕事をするという夢を持つようになった。

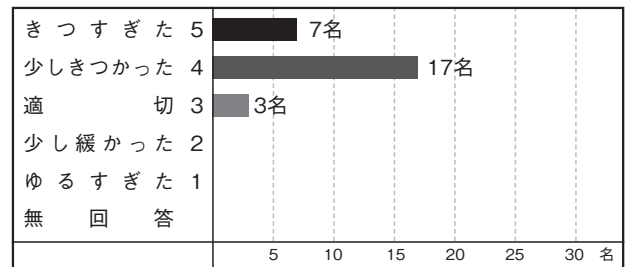
2. 日本での活動について

(1) プログラムの内容についての全体評価



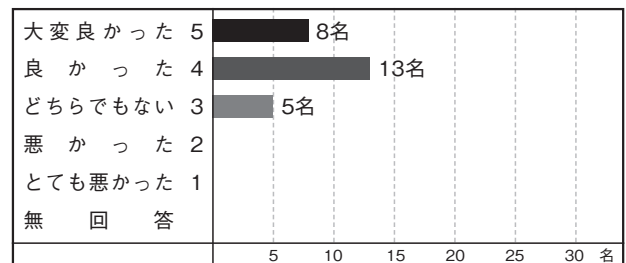
- ・日本の文化を学び、日本人と交流できる機会が多かったので良かった。
- ・日本の伝統文化を体験し、楽しめたのですごく良かった。
- ・日本人の友達作りや様々な活動など、この事業でなかったらできなかったはずの経験がたくさんできて良かった。
- ・全体的にみてディスカッションが多く、日程がややきつかった。

(2) 日程について



- ・本当に充実したプログラムで良かったが、厚さのため、参加者の中には疲れが出た人もいたので、もう少しゆとりのある日程でも良かったと思う。
- ・毎日繰り返される日程がきつく感じられるかも知れないが、15日間充実した交流ができてよかったと思う。しかしそれでもやはり休憩は必要だと思う。

(3) 東京プログラム 課題別視察について



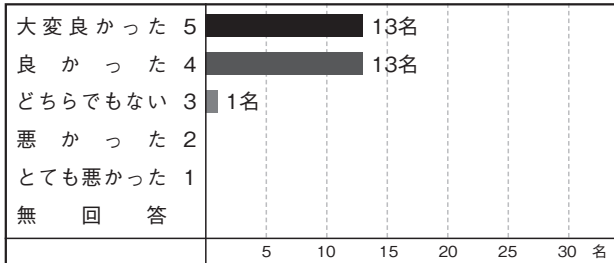
- ・「こどもの孤立化」という同じ問題に対する両国の解決方法が異なったので、より興味深く、色んなものが学べて、特に良かった。
- ・PIECESでの講演を受けて、日韓がともに解決していくべき問題があることに気づかされた。社会的問題に

何があるのか、そしてこれからどうしていきべきなのか、幅広い観点を持つようになった。

- ・ディスカッションがやや多かったけど、いい人たちと一緒に有意義な時間を過ごすことができた。

(4) 東京プログラム

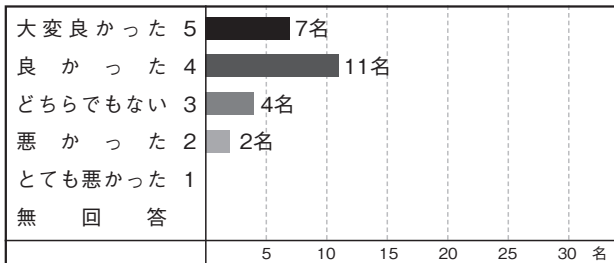
7月27日～29日 日韓青年親善交流のつどいについて



- ・日本人との本格的な交流の始まりだったので、そういう意味でも非常に印象深かった。
- ・日本の青年と一緒に結果を作り上げたのはもちろん、友好を深めることもできて良かった。
- ・日本青年と一緒に生活することで、お互いの文化に対する勉強になった。
- ・実行委員が3日間の日程をきっちり準備してくれて、楽しく過ごせた。

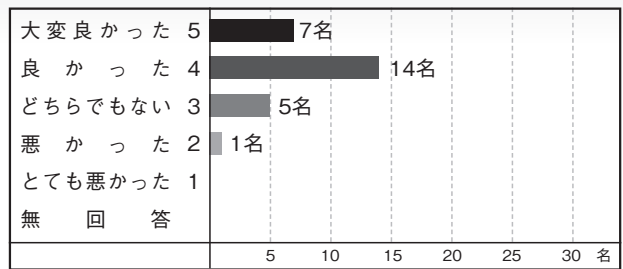
(5) 東京プログラム

8月6日 日本青年との都内視察について



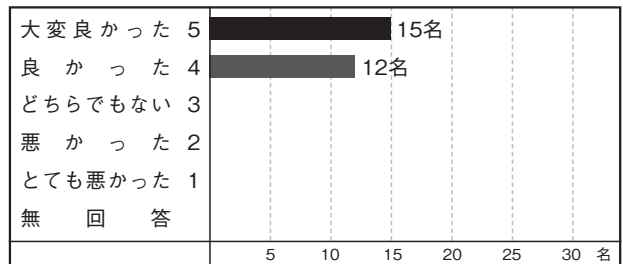
- ・プログラム中珍しい自由時間だったので、ゆっくりと時間を過ごすことができて良かった。
- ・案内してくれた日本青年のおかげで、充実した時間を過ごすことができた。
- ・上野に行ったが、行こうとしたところ(動物園、美術館)が全部閉まっていて、思ったプログラムと違うものになってしまった。事前にもう少し綿密に計画を立てる必要があると思った。

(6) 滋賀県プログラムについて



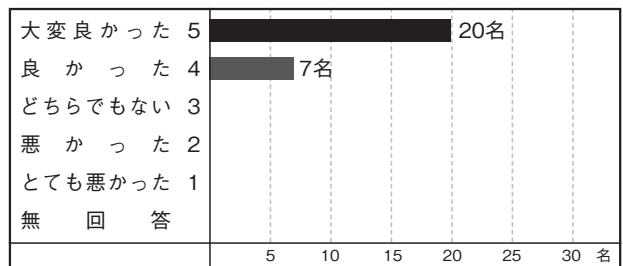
- ・プログラムの内容、そこに込められた意味がすごく良かったので、たくさん学べる時間となった。ただし、施設の問題(暑さ、ほこりなど)により、日程を完璧にこなせることが難しかった。
- ・暑かったけど、滋賀の観光地・伝統文化について学べたし、各種の講演も非常に有意義なものだった。
- ・普段あまり接する機会のない、近江八幡の散策や地域企業訪問などの趣旨や内容にすごく満足した。また「夢を語れ」の講演は本当に印象深かった。ただ、滋賀県の歴史・伝統の名所をもっと体験したかった(琵琶湖、お城など)。
- ・起業家とディスカッションできるいい機会だった。ただ、施設環境が悪かったせいで、プログラムに集中しにくかったのが残念だった。

(7) 岐阜県プログラムについて



- ・うかい、温泉、浴衣など、日本の伝統文化を経験できて良かった。
- ・地域の伝統と特色を十分に味わうことのできるプログラム構成で良かった。特に、県庁の表敬訪問がすごく充実で有意義な時間になった。
- ・おいしい料理、旅館での経験、高校生との交流はこれからも絶対忘れられない。

(8) ホームステイについて



- ・言語や文化の違いを理解してくださって、家族のよう

に接して下さったことに感謝を申し上げたい。食事・見学においても私たちの好みを踏まえて、色々な経験ができるように気遣って下さった。

- ・この日韓青年親善交流事業の意義をよく表すプログラムだと思う。
- ・日本の生活を間近に見て感じる事ができて良かった。

(9) 訪問国活動中、もっとも印象に残ったのは、どのようなことですか。

- ・地方プログラム。地方の文化・魂を守ろうとする姿を見て、韓国も各地方の文化をきちんと受け継いでいてほしいと思った。
- ・ホームステイ。国際結婚の家庭に訪問し、また新しい文化に接することで、文化に対する考え方が変わるきっかけとなったのですごく良かった
- ・自由に青年同士で交流した時間とホームステイで両国の事情について話したこと。より良い日韓関係のためにこれから一所懸命勉強していきたいと思うようになった。
- ・つどい。ここで会ったみんなは私にとっては初めてのできた日本人の友達で、2泊3日間一緒に過ごすことで文化交流できたのが、すごく良かった。

3. 事業を終了して

(1) この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか。

非常に良くなった	5	9名
良くなった	4	15名
変わらない	3	2名
悪くなった	2	
とても悪くなった	1	
無回答		
	5	10
	15	20
	25	30
	名	

- ・日本人の秩序を重んじる姿勢や礼儀正しいところをみて見習いたいと思った。
- ・派遣以前にも良かったけど、文化への理解、日本青年たちとの出会いなどが日本に対する印象を更に良いものにした。

(2) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

- ・ここで得られたものを周りの人に伝え、実行委員としても活動することで国際交流を続けていきたい。
- ・「青少年教育・相談」という自分の専攻を活かして、たくさんの子供と青年にこのプログラムを伝えたい。
- ・コミュニケーションにおける言語の重要性を改めて感じたので、日本語能力を向上させるきっかけにした

い。

- ・日韓関係をより良いものにするために努力していきたい。ここでの経験をもとに、もっと自分で勉強し、SNSへ書き込むなど、自分ができることから始めたい。

(3) その他、この事業に関して特に意見・提言があれば記入してください。

- ・プログラムに観光も少し入れることで、息抜きできる時間があればいいと思う。韓国青年にとっては休みにもなるけど、日本の魅力を知るきっかけにもなると思う。
- ・季節・天気を考慮した場所選びと日程調整。

研修日程 平成30年度日本・韓国青年親善交流事業(日本青年韓国派遣)

【事前研修】

研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

月	日	曜日	8:00	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00		
7月	3日	(火)						団長・副団長・ 渉外会議			参加青年受付 団長・副団長・ 渉外昼食	開講式	オリエンテーション	団別研修	チェックイン・夕食	訪問国における 安全管理及び 訪問国活動に 関する説明	団別研修	振り返り												
7月	4日	(水)						韓国文化院訪問 移動 ・表敬訪問 ・韓国文化講座	移動	昼食	外務省職員による 訪問国に関する 講義			団別研修	夕食	団別研修	OB・OG懇談	振り返り												
7月	5日	(木)						訪問国事情に 関する講義	団別研修	昼食	ブナー& プロトコール講座			団別研修	夕食交流会	夕食	団別研修	振り返り												
7月	6日	(金)						ディスカッション テーマに関する 講座(基礎認知) ・多文化共生	団別研修	昼食	渡航に関する説明			ディスカッション テーマの設定	ディスカッション実演 (テーマ:多文化共生)	夕食	留学生とのディスカッション (テーマ:日韓友好のために 今青年ができること)	振り返り												
7月	7日	(土)						日本青年代表と 関する講義 ・心構え	団別研修	昼食	団別研修			事後活動について	閉講式															

研修会場：都市センターホテル

【出発前研修】

月日	8:00	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	
第1日目 9月3日(月)												受付	オリエンテーション 訪問国活動について		団研修	夕食	チェックイン	団研修	夕食	団研修	夕食	団研修	夕食	団研修	夕食	団研修	夕食
第2日目 9月4日(火)																											
第3日目 9月5日(水)																											

【帰国後研修】

月日	8:00	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00
第1日目 9月19日(水)																										
第2日目 9月20日(木)																										
第3日目 9月21日(金)																										

内閣府青年国際交流事業報告書2018

第32回

日本・韓国青年親善交流事業

発行：内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
TEL：03-6257-1436
FAX：03-3581-1609
URL：<https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町2-35-14
東京海苔会館6階
TEL：03-3249-0767
FAX：03-3639-2436
URL：<http://www.centerye.org/>

印刷：株式会社 長正社